



イルカ通信

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

2011年 6月 1日 No.042

一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)



「イルカの生息域」

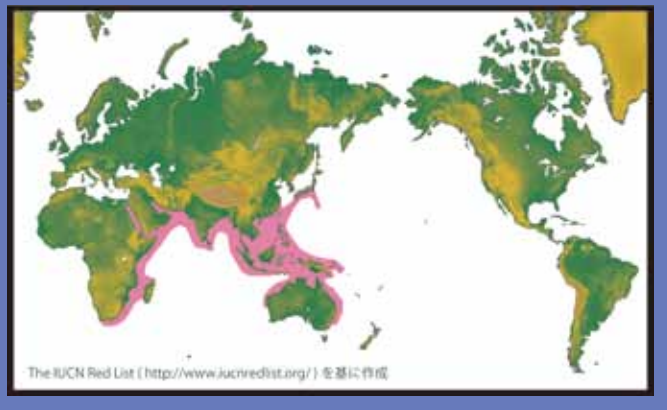
小笠原の周辺で一年中見られるミナミハンドウイルカ。国内では、小笠原のほか、御蔵島や天草、奄美大島、錦江湾、能登島などに生息していることが知られています。

昨年のイルカ通信 (No.036) の中で、小笠原の個体識別番号#39が、父島から約400キロ離れた、伊豆鳥島で発見された事例を報告しました。実は、このような移動の例は他にもあって、例えば御蔵島のイルカが千葉県館山市付近で観察されたこともあるのです(※1)。



※1 : <http://www9.ocn.ne.jp/~dorsals/>

世界的に見るとミナミハンドウイルカの生息範囲は、オーストラリア付近の南太平洋やインド洋などの温かい海の沿岸域となっています。



そして昨年、ミナミハンドウイルカの新たな生息場所が明らかになったのです。それはお隣の韓国の済州島。観光地としても有名な島ですが、以前からハンドウイルカらしいイルカがいることは知られていたそうです。しかし、それがハンドウイルカなのかミナミハンドウイルカなのか分からず、外部形態などからミナミハンドウイルカと断定されました。さてさて、韓国のミナミハンドウイルカ。日本との行き来はあるのでしょうか？気になるところです。

「小笠原で暮らすクジラとイルカ」

冬から春先にかけて、主に出産や子育てなどの繁殖活動のために、小笠原へやってくるザトウクジラ。今シーズンの三日月山展望台からの定点観測では、5月19日現在までに、延べ375頭のクジラを発見しています。

展望台からの定点観測では、父島の西側海域しか観測できませんが、200m以浅の海域に、多く分布していることが分かるかと思えます。

この海域には、ザトウクジラの他にもミナミハンドウイルカなども生息しています。先日、イルカ調査に出かけたところ、ミナミハンドウイルカ10頭の群を発見し、その中には、個体識別番号#9 (ザック) もいました。



今シーズンの三日月山展望台からのザトウクジラ発見位置 (点線は水深200mを表す)

このイルカ、10年以上に渡って小笠原に生息していることが知られているメスのイルカで、今までに少なくとも、3頭の子供を出産していると考えられています。#9は昨年出産したと思われる子供と一緒に、元気そうに泳いでいました。水温が高くなってくると時期は、イルカの出産が多い時期と言われています。もし、新生児のイルカを見かけたら、OWAまでお知らせ下さい。よろしくお祈りします。



個体識別番号#9のイルカ
右目の後ろにある傷が目印



一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会
〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町 Tel 04998-2-3215

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>
e-mail owa@h6.dion.ne.jp

